様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：２４５０６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５７８０４８２

研究課題名（和文）公吏の学習歴―任用史料にみる明治日本の地域エリートの実像

研究課題名（英文）Educational Career of Junior Official in Historical Materials of Appointment in Meiji Era

研究代表者
池田　雅則（IKEDA, Masanori）

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：６０６０９７８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「地方公務員の〈学び〉の履歴」の研究である。対象となる明治期の下級官吏（判任官）は、近代的な制度、技術や慣行を理解し日本社会に定着させる能力（literacy）を有していた。かれらの能力とその形成過程を捉えるため、公文書館に所蔵されている履歴史料を調査した。
その結果、これまで十分に知られていなかった判任官の任用制度が明らかになった。また判任官が、学校および学校外の多様な機会を活かして学習を積み重ねていたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The objective of this investigation is revealing personal career of junior official in Meiji Era. They had had literacies of understanding modern systems, technologies and practices, and of establishing them in Japan. We investigated historical materials of appointment in many archives.
Then we can reveal system of appointment in detail, and know junior official in Meiji era had educational careers in schooling and non/in-formal opportunities of learning.

研究分野：日本教育史

キーワード：教育史　生涯学習　中等教育　各種学校　判任官　学習歴　リテラシー　ノンフォーマル

１．研究開始当初の背景

(1)現代的に言えば、本研究は「地方公務員の〈学び〉の履歴」の研究である。明治期の公吏は、近代的な制度、技術や慣行を理解し日本社会に定着させる能力（literacy）を有した。

(2)明治日本におけるその実像の解明を試みる本研究の背景をなす研究動向は、教育学、行政学、歴史学にまたがる。具体的には、公務員研究・教育メディア研究・学校研究の 3 点が挙げられる。しかしながら、判任官レベルの公吏の学習歴を解明しようとする本研究の課題意識から研究蓄積を捉え直したとき解決できていない課題が残されている。具体的には、判任官レベルの公吏の学習歴の実像が捉えられていないこと、研究対象が高級官僚に偏っていること、史料が中央政府の文書、回想録、伝記や雑誌メディアに偏っていること、個人史に偏っていることである。

(3)本研究の学術的な特色は、第一に地域の公吏を対象とすること、第二に一次史料に根ざしていること、第三に大量の史料を用いることである。本研究を通して得られるとみられる知見は、地域社会の近代化の基盤となった人物の実務能力形成過程の実像であり、そこに果たした非正規の教育機関や独学の歴史的意義の大きさである。本研究を通して、十分明らかでなかった近代日本の地域エート層の能力像が明らかになる。また、近代史上における学校外での能力形成の役割の大きさへの着目が集まり、非正規の教育機会や生涯学習の歴史的研究が推進されることになる。

２．研究の目的

近代的な制度、技術や慣行を理解し日本社会に定着させる基盤となった地域エリートである公吏の学習歴について、公文書館所蔵の膨大な任用史料に基づき明らかにすることである。具体的には、中等教育卒業程度の学力を有する判任官レベルの公吏の学習歴に注目する。地域行政の実務を担ったかれらは、一方では命令を正確に理解して現場に分かりやすく伝達し、他方では現場の意見を集約して伺いを立てる能力（literacy）を有した。その能力を得るために、かれらは正規の学校ではない私塾など非正規の教育施設も活用し、さらには独学をしていた。複雑な学習歴の実像を、任用書類に含まれる履歴書や「文官普通試験」関連史料から明らかにする。

３．研究の方法

目録調査や準備的実地調査によって膨大な任用史料の所蔵が確認できた複数府県の公文書館において史料収集を行う。収集した史料を解読・整理してデータベース化した上で、量的研究を行う。また、地域間、職務・職階や階層間の比較研究や個別の府県に絞った時系列的研究を行う。そして、明治日本の判任官レベルの公吏が複線的で複雑な学習歴を蓄積させていた実態と、かれらの学習歴が徐々に正規の学校教育の枠内に吸収されていく変化を明らかにしたい。研究を効率的・効果的に進めていく上では専門性を有する研究者に協力を願う必要があると判断し、古文書読解に専門性を有する教育史研究者を研究協力者として申請した。

４．研究成果

(1) 平成 25 年度に実施した研究は、史料の収集整理、および先行研究の整理であった。史料の収集については、京都府では明治 20 年代の文官普通試験の受験者履歴書および試験実施史料を収集した。奈良県では、明治 20 年代から 30 年代にかけての文官普通試験の実施史料および人事関係例規を収集した。愛知県では教員の履歴書を収集した。群馬県では、明治 20 年代から 30 年代にかけての文官普通試験の受験者履歴書、人事関係例規を収集した。また国会図書館に所蔵されている文官普通試験および人事関係の文献の目録化と収集を実施した。そして、官更の人数と種別を量的に把握するために『帝国統計年鑑』などの統計史料の目録化と収集を実施した。先行研究の検討や課題のブラッシュアップについては、平成 25 年 12 月、平成 26 年 1 月および 3 月に検討会を実施した。

(2) 26 年度は史料調査、先行研究の解読、学会における成果発表および論文執筆を行った。史料調査については、群馬県および埼玉県での調査を実施した。群馬県における調査では、1500 名程度の履歴書と試験問題の解答用紙を収集することができた。加えて、人事関連例規を収集することができた。埼玉県における調査では、普通試験受験者の学習歴、詮衡任用関連文書、職員向け講習の文書などの収集を行った。試験実施の実態調査については『官報』広報欄の調査を進めた。先行研究ートの学習読については、行政史、政治史および教育史の関連書籍を収集して解読を進めた。その結果、先行研究では判任官任用に関わる研究が大きく立ち後れていることが判明した。それゆえ戦前期の公務員制度および試験制度を整理する作業をも研究代表者自ら行う必要性があるという課題が新たに立ち現れた。学会における成果発表について、日本教育史研究会における報告では、サブエリートの「学び」がノンフォーマル・インフォマルな機会を通して果たされた事実を明らかにした。そして「学び」の研究を主題化することは学校教育に重心を置いた教育史研究を生涯学習に重心を置いた教育史研究に逆転させることにつながりうることを提起した。論文執筆については、戦前期の公務員制度および試験制度を明らかにする研究、量的規模を統計書類から明らかにする研究を行った。

(3) 平成 27 年度においては、史料調査、研究会報告、学術論文の発表および調査内容の整理を行った。史料調査については、国文学研究資料館が所蔵する「群馬県庁文書」を閲覧撮影し、明治 20 年代の官吏任用例規を新たに発見収集することができた。宮城県立公文書館ｄねお調査では、三等郵便局長の任用文書を発見収集することができた。また雇員や銓衡任用の文書を収集できた。研究会報告については、「〈教育と社会〉研究会」において投稿論文の検討会を実施していただいた。また研究協力者の山下廉太郎氏や助言者の松尾由希子氏と会合を重ね、翌年度において、本課題の成果を広く公表するために学会での共同報告を実施することを決定した。最終年度の平成 28 年に向けて、大量の史料を整理するために、アルバイトの支援を受けた。

(4) 最終年度にあたる平成 28 年度には、これまで着手してきた研究成果を広く外部に公表することを主たる活動とした。日本教育学会第 75 回大会では、企画報告にあたるラウンドテーブルにおいて報告会を実施した。「「履歴史料」より覗き見る近代日本人の学びとキャリア形成」と題し、研究代表者、協力者の山下氏、助言者の松尾氏が報告し、司会を花井信氏に依頼した。日本教育史に限らず、現代のキャリア研究や海外の履歴研究を専門とする研究者など、他分野からの参加者を得ることができた。論文の公表としては、査読誌に登校し掲載された。また、成果の取りまとめとして冊子体の科研費成果報告書を作成した。助成期間において公表した成果に加え、収集した史料の翻刻やリストを掲載した。また、未公表であった文章も掲載した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

① 池田雅則、中学校と「同等」とされた学校および課程の認定基準と範囲—1899 年「公立私立学校認定ニ関スル規則」までの判任文官任用制度より、日本教育史学会紀要、査読有、7、2017、22-45

② 杉浦由香里、教育令期群馬県における地方教育行政の展開、教育史研究室年報』査読無、21、2016、13-40

③ 山下廉太郎、近代日本の公教育制度と私教育—裁縫塾を手がかりに、教育史研究室年報、査読無、21、2016、1-12

④ 池田雅則、「学校」外でも生きる学習者を捉える、ＵＰ、執筆依頼、45(2)、2016、28-33

⑤ 池田雅則、判任文官たりえる資格—1913 年改正「文官任用令」までの官吏任用制度、〈教育と社会〉研究、査読有、25、2015、43-54

⑥ 池田雅則、明治の判任文官層—キャリア形成としての教育史における研究対象、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、査読有、22、2015、1-14

⑦ 山下廉太郎、明治期における女性の教育と進路—愛知県額田郡保久村近藤家三姉妹を対象に、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）、査読無、61(2)、2015、53-63

⑧ 松尾由希子・山下廉太郎、「学制」成立期の教員の資質能力—近世・近代移行期における群馬県教員の履歴の分析、静岡大学教育研究、査読有、10、2014、1-16

〔学会発表〕（計７件）

① 池田雅則・松尾由希子・山下廉太郎、「履歴史料より覗き見る近代日本人の学びとキャリア形成、日本教育学会第 75 回大会、2016 年 8 月 23 日、北海道大学（北海道札幌市）。

② 池田雅則、日記にみえる長善館—青年たちは何をどう学んだのか？、平成 27 年度新潟県立文書館特別企画展記念講演会、2015 年 10 月 31 日、新潟県立文書館（新潟県新潟市）。

③ 池田雅則、近代移行期における学習歴の構造化に向けて—日記という史料、第 33 回日本教育史研究会サマーセミナー、2014 年 8 月 26 日、同志社大学今出川キャンパス（京都府京都市）。

④ 池田雅則、伝統私塾と近代日本の中等教育、比較教育社会史研究会 2014 年秋季大会、2014 年 11 月 24 日、広島大学東京オフィス（東京都港区）。

⑤ 山下廉太郎、明治期における旧旗本在地代官の子どもたちの教育と進路—愛知県額田郡下山村近藤家を事例に、教育史学会第 58 回大会、2014 年 10 月 5 日、日本大学文理学部（東京都世田谷区）。

⑥ 橋本昭彦・池田雅則・江面嗣人ら、近世日本の教育遺産、教育遺産世界遺産登録推進国際シンポジウム 2013、2013 年 10 月 6 日、足利市民プラザ文化ホール（栃木県足利市）。

⑦ 池田雅則、地域リーダーたちの学びの展開—近代移行期・長善館学塾資料の世界、

平成 25 年度新潟県立文書館特別企画展記念講演会、2013 年 10 月 26 日、新潟県立文書館（新潟県新潟市）。

〔図書〕（計５件）

① 池田雅則（日田市教育委員会（編））、日田市、図説咸宜園—近世最大の私塾、2017、164（142-143）

② 池田雅則（荒井明夫・川村肇（編））、東京大学出版会、就学告諭と近代教育の形成—勧奨の論理と学校創設、2016、576（297-337）

③ 杉浦由香里（伊賀市（編））、新日本法規、伊賀市史　第三巻通史編近現代、2014、1063（35-51,234-252,438-450,604-624）

④ 池田雅則（神辺靖光（編））、梓出版社、明治前期中学校形成史・府県別編Ⅲ東日本、2014、448（111-176）

⑤ 池田雅則、東京大学出版会、私塾の近代—越後・長善館と民の近代教育の原風景、2014、472

〔その他〕

池田雅則、科学研究費補助金・若手研究（B）研究成果報告書・公吏の学習歴—任用史料にみる明治日本の地域エリートの実像、2017、225

６．研究組織

(1)研究代表者

池田　雅則（IKEDA Masanori）
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：６０６０９７８３

(2)研究協力者

山下廉太郎（YAMASHITA Rentaro）
名古屋大学・教育発達科学研究科・助教
研究者番号：８０７７０９３２

杉浦由香里（SUGIURA Yukari）
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：９０７３４１１１